

デジタルアーカイブ研究所の概況

(1) 使命・沿革

デジタルアーカイブ研究所は、デジタルアーカイブの理論や人材教育を研究している国内唯一の高等教育機関として、2015年に開所した。

デジタルアーカイブとは、高度情報化社会において、博物館・図書館・文書館の所蔵資料だけでなく、企業の文書・設計図など、有形・無形の文化・産業資源などをデジタルアーカイブとして記録、保存、活用することを指し、社会の全領域における知的生産に寄与し、今後の知識基盤社会を支えるものといっても過言ではない。

デジタルアーカイブは各方面から注目されており、図書館や博物館の所蔵資料といった文化資産だけでなく、企業の特許資料などの文書資料をデジタルアーカイブ化し、情報資産として、社会の中で組織的に活用することが求められている。

デジタルアーカイブ研究所の使命は、こうした社会の要請に対応し、デジタルアーカイブの基礎理論や社会の全領域での活用、教育方法の研究を進め、デジタルアーカイブを基礎とした知識基盤社会の充実を図り、我が国の発展に役立てることである。

創設から現在に至る経緯は以下の通りである。

- 2000年 文化情報研究センター開所、デジタルミュージアム開館
- 2004年 文部科学省現代GP「デジタル・アーキビストの養成」選定
- 2006年 NPO法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構設立
- 2007年 文部科学省委託事業「社会人のためのデジタル・アーキビスト教育プログラム」選定
- 2008年 文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラム「実践力のある上級デジタルアーキビスト育成」選定
- 2015年 デジタルアーカイブ研究所開所
- 2016年 デジタルアーカイブ研究所開所式典
(同時開催 デジタルアーカイブ in 岐阜)
基調講演
真鍋真氏「恐竜から現代の鳥類へーデジタルアーカイブの教育利用ー」
- 2017年 国(内閣府)が、我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性を提示
課題として、人材の確保および育成を挙げる
デジタルアーカイブ学会設立 7月第1回研究大会を岐阜女子大学にて開催
- 2018年 「デジタルアーカイブ推進整備法」の制定が超党派の議員連盟で検討

(2) 組織

各部門の研究概要は、『デジタルアーカイブ年報 2015』に記載されている。

I 基礎研究部門

- ① 資料収集研究…撮影記録方法含む、短期・長期保存技術など
- ② 資料保管研究…シソーラス、メタデータ含む、資料の保管方法
- ③ 資料評価研究…資料の選定評価方法（著作権、プライバシーなど）
- ④ 提示方法研究…多様なメディア利用

II MLAC 研究部門 デジタルミュージアム（附属研究施設）

- ① 図書館、企業内図書館
- ② 博物館、企業内博物館
- ③ 社内図書館等社史
- ④ 地域文化資料

III 利用研究部門

- ① 教育、観光利用など
- ② 資料提示…各種情報資源（資料）の提示・提供
課題解決…デジタルアーカイブ資料を利用した課題解決（学力向上など）
知的創造…課題解決などで得られた結果から新しい知を創造

IV 研修・資料保存部門

- ① 学内外の研修・教育活動
- ② 資料保存業務
- ③ 資格関連業務
- ④ 開発業務
- ⑤ 日本デジタルアーキビスト資格認定機構、日本アーカイブ協会、デジタルアーカイブ研究会など関連機関連携